

◎消化器内科／内視鏡センターから数多い質問にお答えします。

胃がん検診や血液検査で行われている「ペプシノゲン検査」って？

Q&A

Q ●健康診断の結果で「ペプシノゲン検査が陽性である」といわれました。どういうことでしょうか？

A ●萎縮性胃炎になっている可能性が考えられます。

萎縮性胃炎になる原因としては、ヘリコバクター・ピロリ菌（以下ピロリ菌）があげられます。ピロリ菌に感染していると、慢性活動性胃炎と呼ばれる持続的な炎症を引き起こします。そして次第に胃の粘膜が萎縮し、胃がんが発生しやすくなります。

Q ●ピロリ菌はどのような経路で、いつ人の胃に入り込むのでしょうか？

A ●口から入って感染します。

それでは、生水を飲んだり、キスでピロリ菌に感染してしまうのでしょうか？

上下水道の完備など生活環境が整備された現代日本では、生水を飲んでピロリ菌に感染することはないと考えられています。また、大人になってからの日常生活・食生活ではピロリ菌の感染は起こらないと考えられます。ピロリ菌は、ほとんどが幼児期に感染すると言われています。幼児期の胃の中は酸性が弱く、ピロリ菌が生きのびやすいためです。そのため最近では母から子へなどの家庭内感染が疑われていますので、ピロリ菌に感染している大人から小さい子どもへの食べ物の口移しなどには注意が必要です。

Q ●ペプシノゲン検査が陽性だった場合、どうすればいいの？

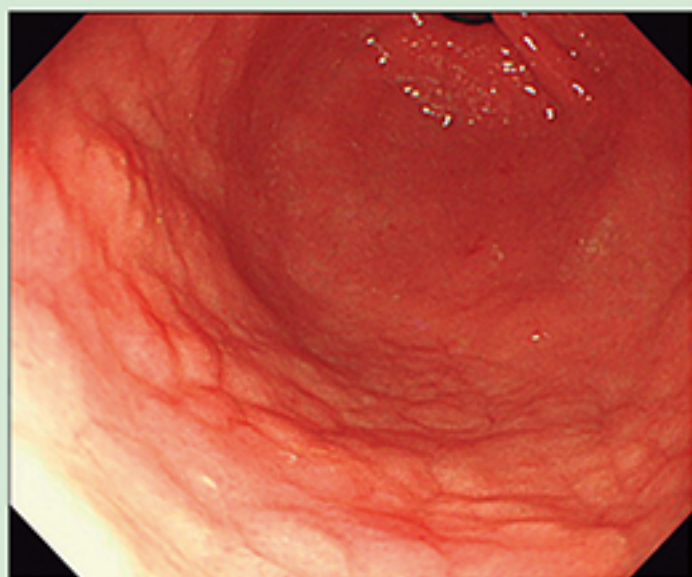
A ●まずは当院消化器内科医師へご相談ください。

「ペプシノゲン検査が陽性と言われた」→「萎縮性胃炎があるだろう」→「ピロリ菌がいるかもしれない。もしくはいた」→「胃がんのリスクがある」→「胃を内視鏡で精査してもらおう」とお考えください。

ペプシノゲン検査は、萎縮性胃炎の可能性を推測し、胃がんかもしれないということを教えてくれる検査です。直接胃がんを調べているわけではありません。胃がんを予防していくために、「まず内視鏡検査を受けて胃がんができていないか確かめる」「ピロリ菌の有無を確認し、感染があれば除菌治療を行う」この2つが大切です。

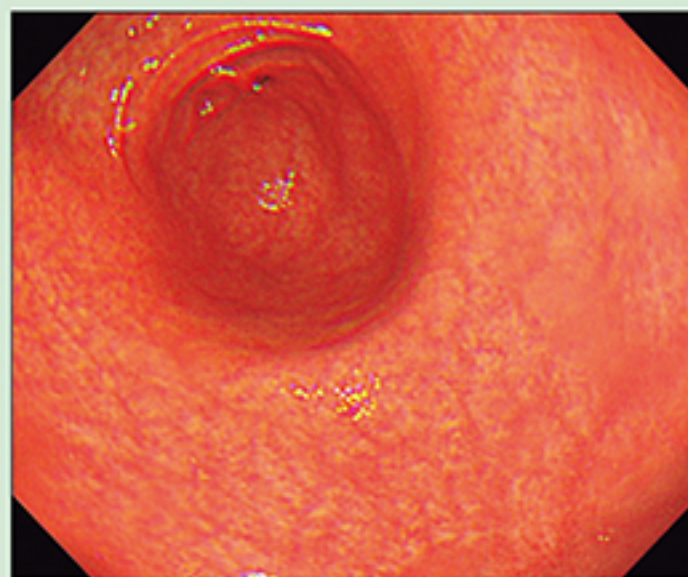


内視鏡センター長
芹澤医師



萎縮性胃炎あり（ピロリ菌陽性）

胃粘膜が薄くなり（萎縮）ゴツゴツした変化も出てきている様子がわかります。



萎縮性胃炎なし（ピロリ菌陰性）

胃粘膜は厚みを保ち、均一な肌色である様子がわかります。

※萎縮性胃炎の診断はあくまで胃の内視鏡検査または造影検査を行った上で判断されます。

それらの検査を行わずにピロリ菌感染の診断やピロリ菌除菌治療を保険診療で行うことはできません。